

議長定例記者会見 会見録

日時：平成25年2月4日10時30分～

場所：全員協議会室

- 1 冒頭の発言事項
新年度予算審議（2月・3月議事予定の変更）
- 2 発表事項
第8回三重県議会トップセミナーの開催
- 3 質疑項目
政務調査費について
体罰について
一括交付金について
がれきの広域処理について

1 冒頭の発言事項

新年度予算審議（2月・3月議事予定の変更）

（議長）おはようございます。ただ今から、2月の議長定例記者会見を開催させていただきます。まず発表事項に入る前に、私の方から報道機関の皆様にお願ひしたいことがありますので、申し述べさせていただきます。本県の平成25年度当初予算につきましては、国の予算編成作業の遅れを受けて、例年と比べて提出時期が大幅に遅れる見込みでございます。このため、先月17日に開催された議会運営委員会において、2月及び3月の議事予定を変更したところでございます。具体的には2月27日に当初予算を含む諸議案を上程し、3月4日に代表質問、5日、7日、11日および12日に一般質問を行い、13日からの委員会審査の後、26日に本会議採決を行う予定でございます。議事予定の変更につきましては、県民にご迷惑がかからないように、周知に努めていきたいと考えております。報道機関におかれましても、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

それでは、続きまして、「第8回三重県議会トップセミナーの開催」について発表をさせていただきます。三重県議会トップセミナーは議員の政策形成能力の向上を図り、県議会での政策議論の充実・深化につなげていくことを目的に実施しておりまして、今回で8回目になるところであります。お手元に配付しました資料のとおり、今月28日木曜日の議案聴取会の終了後に、1時からで

すけども、全員協議会室で全議員を対象に開催いたします。テーマを「政権交代後の地方制度改革・地域政策の行方」としまして、読売新聞東京本社編集委員で、本県の「議員報酬等に関する在り方調査会」の委員も務められました青山彰久様を講師にお話をいただく予定でございます。なお、講演いただきました後に、議員との意見交換も予定をいたしております。地方分権の推進につきましては、これまで「地域主権戦略会議」や「第30次地方制度調査会」などの場において議論がされてまいりましたけれども、昨年12月に安倍内閣が発足し、一括交付金の見直しなど地方制度に大きな影響を与える新たな動きも出てきております。今回のトップセミナーにおいては、政権交代後の地方分権改革と地域政策について、国の動向も交えてお話をいただき、今後の議会での議論に役立ててまいりたい、そんなふうに思っておりますのでございます。私の方からは以上でございます。

政務調査費について

(質問) 政務調査費の条例改正案出ますけども、あれっってもっと細かい使途についてまた改めて詰め直すのでしょうか。

(議長) それぞれの会派で議論をしていただいておりますし、また執行部を呼んで会派などで説明を聞かれるというのも一つの手かというふうに思います。いずれにしても、われわれ議会議員の方も、新たな制度について再度議員の皆さんに、何らかの形で周知徹底するということは必要かなとこんなふうに思っておりますが。

(質問) 議論はワーキンググループで。

(議長) ですね。はい。

(質問) いつ頃めどになりますか。結論というか。

(議長) 今度のですね、27日ですか。2月27日の本会議で上程、採決される予定ということでございます。

(質問) 細かなところの使途というのは、どの辺までですか。

(議長) 今言いましたように、細かな点について発表するというようなことというのは、地方自治法改正で政務調査費が今までの政務調査から議員活動費というふうになるということでございますので、われわれの勉強もしながらで

すね、そのガイドラインというのは決めていかなきゃいけないんですが、おそらく3月までかかるのかなというような、そんな感じですけども。

体罰について

(質問)最近、体罰の問題がかなり社会問題として取り上げられていることが多いですけども、2月1日に電話相談窓口を一応設置して、初日だけで12件の相談が一応あって、うち3件は実際体罰にあっているという生徒本人から相談があったりと、そういったこともあるみたいですけども、議長ご自身の県内の体罰とか、そういうふうなことはどういうふうにお考えなんでしょうか。

(議長)これについてですね、県当局からの説明というのはありません。ありませんが、マスコミなどでいろいろと報道しておるのを見聞きしますとですね、本当に悩ましいことかなというふうに思います。特に、そういった体育の先生とかですね、生活指導の先生たちのスタンス、立ち位置がですね、どこまでなのかというか、本当に難しい問題だと思いますね。解決策というのはなかなか無いんですが、いずれにしてもその体罰はだめだということは決められておりますので、そんな中で生徒をどうやって指導しながらですね、いい方向に持っていくかという、まさに教育の根幹に関わる部分でありますので、それぞれの教育委員会なりですね、しっかりとした指針をもう一度再確認するということが大事なのかな、こんなふうに思いますね。

(質問)話を伺っていると、もう手を上げること自体が体罰となるという話で、指導の一貫として、結構僕らの年代も含めて、手を上げられたこととかあると思うんですけども、そういった指導方針みたいな、難しいとは思いますが、議長はどういうふうに思われますか。

(議長)先ほど言った通りであります。それぞれの個人的な思いもあると思うんですけども、これが体罰でこれが指導だというようなその境目というのはよく分かりませんし、状況によっても違うし、クラブ活動の内容によっても違うし、受け持っている担任の先生方たちですね、それぞれの思いも違うし、生徒さんたちもそれぞれのお考えがありますから、基準というのはなかなか設けられないというのが実情だと思うんですけども、そんな中での指導でありますから、本当に悩ましい問題だと思います。ただ、先ほども言いましたようにですね、体罰はしちゃいけないということでありますから、そこはもうきちんとしてですね、基本線を押さえながら、どうやって生徒指導していくかというのは本当に難しいことだなというふうに思います。

一括交付金について

(質問) 今議長おっしゃられた中で、予算に関しても一括交付金がまた従前のいわゆるひも付き補助金の形に回帰するという方針が現行の与党から示されてるわけですが、これに戻ることによってですね、県予算の使い方などで今後どういう影響が出るというふうに思われますか。これは副議長も会派が違いますので、ぜひどういうふうに進んでいくのかということをおっしゃっていただければと思うんですけども。

(議長) 一昨年ですね沖縄へ視察に行った時に、沖縄県の担当者の方から一括交付金とは言いながらすべてその自治体に使い勝手がいいようにできるというようなものではないというようなことはおっしゃってました。中身についてそんな詳細に把握してはおりませんが、それならもう一度すべてひも付きだというようなことでもないように思うんですね。一括交付金を無くすけども、改めるけども、しかし地方の自治体ですね、以前と違ったようなそんな交付金制度にするということを政府も言っているように一部報道で聞いておりますので、元に完全に戻すというようなことが無いように、地方自治体の意向も十分に尊重しながらという、そんなことでいいんじゃないかなというふうに思いますが。

(副議長) 農林水産省なり国土交通省なりの一定の事業の枠から拠出をしてプールをした一括交付金でしたから、3年間でどういう形で三重県がその交付金を使ってきたかというのまではきちんと私は知っているわけではありませんので、そこらへんは難しいところですけども、ちょっと議長とスタンスが違って、やっぱりそれぞれの縦割りでひも付きでくるよりは、使い勝手は良かったんじゃないかと思えますし、同時にそこには中央の意向に沿った形で使うよりもそれぞれの地域の特性、考え方に応じて使えた制度だったと思えますので、無くなってしまうのは残念に思っています。

(質問) 関連で副議長、そうなることのような現場で弊害が起きてくる可能性があると思われますか。県職員OBという立場からも実際使う側におられた方ですので、どんなところで弊害が出てきそうでしょうか。

(副議長) 一つの事業メニューを国から示されて、それに許可を受けて補助金なり交付金でもらう形になるんですね、また戻るわけですね、でももう少し例えば県庁の部内でこの課ではお金が余っている、この課ではお金が足りない話をしてみたらそれは一つの事業でまわすことができるということはよくあることですから、そこらへんをうまく部内なり部局を超えた連携をすることに

よってできたのが少しできにくくなるんじゃないかというところを心配してま
すね。

がれきの広域処理について

(質問) がれきの広域処理の問題で、三重県では受け入れる必要が無くなった
という発表があったんですが、それに対する受け止めとその問題についての三
重県の対応への評価をお願いします。

(議長) 個人的にはですね、いろんな市町に対して働きかけをし、積極的に受
け入れてやろうというような町もあったし、また首長さんもあったように思う
んですが、結果はこういうことになってですね、たいへん協力をしてやろうと
いってくださった市町の関係者の方にはですね、本当にこの機会に感謝申し上
げたいなとそんなふうに思います。ただ、他の市町の中で受け入れは困るとい
った自治体もかなりあるわけで、そういった人たちはこれで良かったな、三重
県が受け入れしなくて良かったなとそんな首長さんたちや議会の方々、また関
係者の方々も思ってみえると思うんです。だけどいずれにしてもなんらかの形
で絆というような言葉が当時流行ったんですが、今あまりそんなようなこと
をいう自治体関係者がいなくなっちゃったんですけど、しかしみんなで助けてや
ろうというようなそんな気持ちというのはずっと持ち続けていかなきゃいけな
いんじゃないかなとそんなふうに私は思います。

(以 上) 10時45分 終了